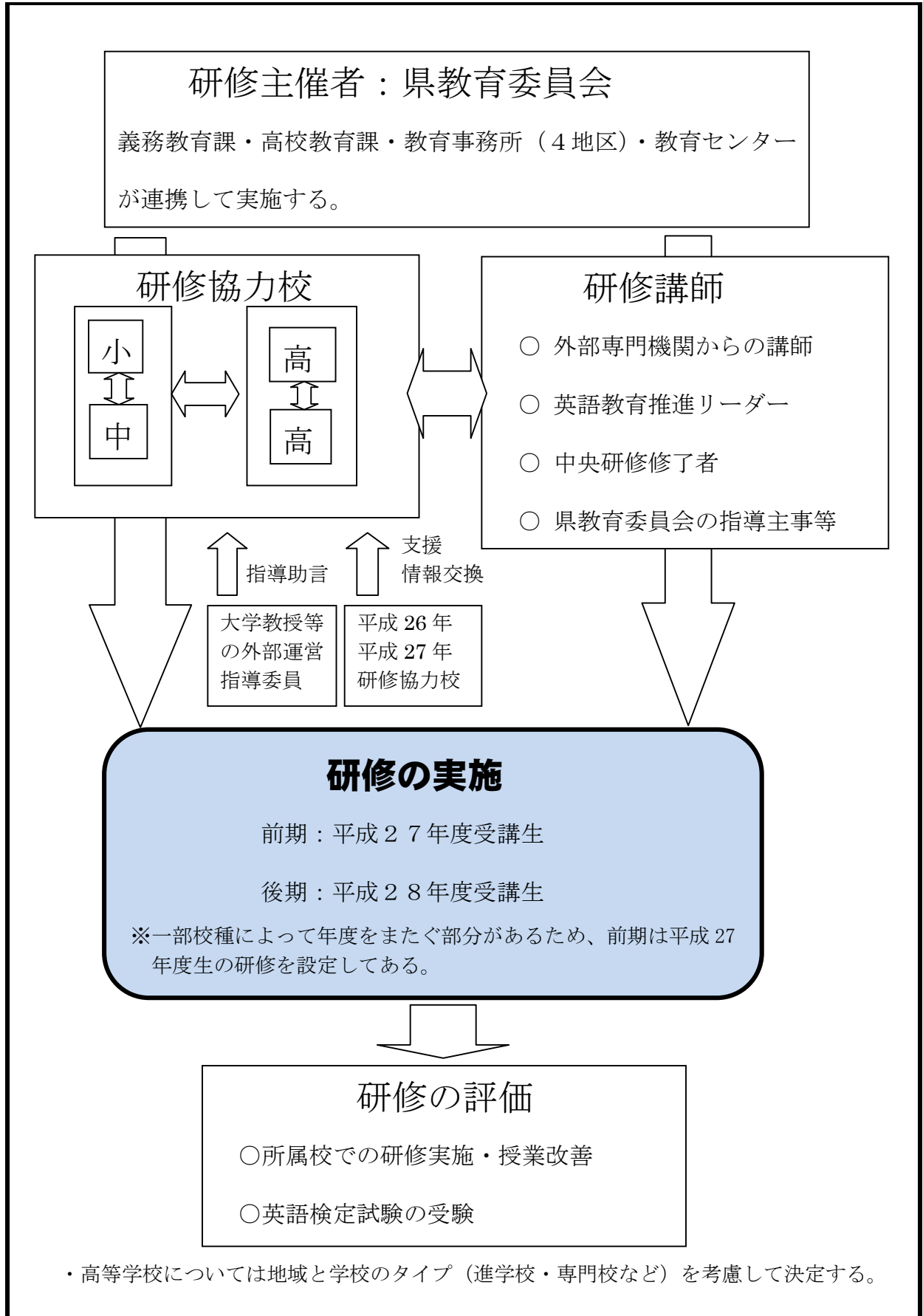


山形県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

I 教員の英語力

現状（平成27年12月現在、文部科学省調査から）

校種	英語教員 担当者数(a)	(a)の内、英検準1級等を 取得している教員数(b)	$\%(\text{b}/\text{a} \times 100)$
中学校	327	64	20%
高等学校	233	110	47%

<目標>（資格所得者数）

校種	新規取得者数/取得者数合計(取得率%)	
	H28	H29
中学校	50 / 114 (35%)	50 / 164 (50%)
高等学校	35 / 145 (62%)	29 / 174 (75%)

以下の表に記載したとおり、県内研修に参加する教員数は、目標の新規資格取得者数より多い。研修受講者を中心に資格試験受講者を増加させると同時に、特別価格での資格試験受験をこれまで以上に奨励していく。また、受験しやすい環境を作るために、TOEICやTOEFLの団体受験を実施するなどの取組を行う。

英語担当教員研修受講者数（計画：特別支援学校英語教員は中学校に含む）

校種	参加者	平成28年度		平成29年度		平成30年
		前期	後期	前期	後期	前期
小学校	英語教育推進リーダー	3	3	3	3	3
	県内研修受講者	80		80		—
	県内研修受講修了者数	221		301		301
中学校	英語教育推進リーダー	3	3	3	3	3
	県内研修受講者	90		90		—
	県内研修受講修了者数	211		301		301
高等学校	英語教育推進リーダー	3	4	4	4	4
	県内研修受講者	42	72		72	
	県内研修受講修了者数	60	132		202	

【参考】H27/12月現在

	小学校	中学校	高等学校
学校数	260	100	43
担当教員数	4142	299	233

※この表には特別支援学校の英語教員は含まれていない。

II 生徒の英語力

現状（平成27年12月現在、文部科学省調査から（調査対象は公立校のみ））

校種	3年生の生徒数(a)	(a)の内、目標とする英語力を取得している生徒数(b)※	$\%(b/a \times 100)$
中学校	10,415	3064	29%
高等学校	7,176	2,737	38%

※中学校は英検3級程度、高等学校は準2級程度

<目標>

校種	目標とする英語力を有する生徒の割合(%)	
	平成28年度	平成29年度
中学校	43%	50%
高等学校	43%	50%

- (1) 生徒の英語力向上のためには、授業改善が不可欠である。4技能のバランスがとれ、生徒の活動が中心となる指導の着実な実施のため、教員研修の充実をはかっていく。
- (2) 外国語指導助手とのチームティーチングを充実させ、生徒の英語への興味・関心を高める。
- (3) 実用英語検定試験などの外部検定試験の受験を促進し、生徒の内的動機づけをはかる。

III 学習到達目標の整備状況

現状・目標

校種	学習到達目標を設定している(高校は学科数)の割合(%)			
	H26	H27(現状)	H28	H29
中学校	8%	21%	55%	100%
高等学校	21%	46%	70%	100%

- (1) 外部専門機関から講師を招聘し、CAN-DO リストの形での学習到達目標の設定・活用についての研修を実施する。
- (2) 具体的なイメージを持って各校で作成できるよう、先進的な取り組みを行っている学校の事例発表等を行う。
- (3) 研修受講者には、学習到達目標をどのように授業改善に活用しているかの報告を求める。
- (4) 研修協力校における公開授業時等には、参加者が各校のCAN-DO リストを持ちより、それについてグループ協議等を行う時間を設定する。

※なお、学習到達目標の公表及び達成状況の把握については、設定と同様の目標を考えている。

IV 生徒の英語による言語活動

現状・目標

校種	授業の50%以上の時間、生徒の英語の言語活動を行っている割合(%)			
	H26	H27(現状)	H28	H29
中学校	48%	62%	80%	100%
高等学校	41%	49%	70%	100%

中学校においては平成26年度の48%から13ポイント増と、状況は大幅に改善している。これは、未だ学年進行で言語活動の割合が減少する傾向は見られるものの、その減少の割合が少なくなっていることによる部分大きい。

高等学校においては、平成26年度の41%から、8ポイント数値が増加している。これは、昨年度調査で言語活動の割合が低かった「コミュニケーション英語Ⅱ」において状況の改善がみられたこと、今年度から開始された「コミュニケーション英語Ⅲ」において言語活動を中心とした授業が展開されているためである。この意味では、「コミュニケーション英語」に限った言い方をすれば、言語活動を主体とした授業スタイルが確立しつつ学校が、増えてきていると言える。しかしながら、「コミュニケーション英語」に係る問題としては、言語活動を行うのにふさわしいレベルの教科書が選定されていない学校もあり、継続的な指導を行っていく必要がある。

一方、「英語表現」においては、改善はみられるものの、「教科書を教える」指導を行っているため、言語活動の時間が十分に確保できていない状況が続いている。「教科書で教える」指導法のあり方について研修を進めるとともに、様々な研修機会を通じて具体的に何をすればよいのかを提示していく必要がある。

V パフォーマンステストの実施状況

現状・目標

校種	スピーキングテストの実施状況		
	H27(現状)	H28	H29
中学校	3回	4回	6回
高校 コミ基	1回	4回	6回
コミⅠ	2回	4回	6回
コミⅡ	2回	4回	6回
コミⅢ	1回	4回	6回
英語表現Ⅰ	2回	4回	6回
英語表現Ⅱ	2回	4回	6回

中高共通して、パフォーマンステストの実施方法に関する教員の理解が十分ではない。

日常的に実施するパフォーマンス評価のあり方も含めて、研修や研究協力校における公開授業等で理解を深めていく必要がある。高等学校の「コミュニケーション英語基礎」と今年度から実施された「コミュニケーション英語Ⅲ」におけるスピーキングテストの実施状況については、選択校も少ないことから対象校だけでなく、全校にわたり十分な情報提供を行っていく必要がある。

中学校では、ほぼ学期に1回の割合でスピーキングテストが実施できている。各学期に2回実施を目標としていく。

校種	ライティングテストの実施状況		
	H27(現状)	H28	H29
中学校	2回	4回	6回
高校 コミ基	0回	4回	6回
コミⅠ	1回	4回	6回
コミⅡ	1回	4回	6回
コミⅢ	1回	4回	6回
英語表現Ⅰ	2回	4回	6回
英語表現Ⅱ	2回	4回	6回

中学校では、ライティングについては低学年ほどパフォーマンステストが実施できていない傾向があるため、低学年でも実施できるライティングテストの方法などについて研修を深めていく。

高等学校では、コミュニケーション英語ではライティングの試験が実施されていないケースが認められる。各校において、全ての科目において4技能のバランスよく指導し、評価するような体制が構築できるよう支援していく。平成28年度は全ての学期において1～2回ずつパフォーマンステストを実施するよう計画していく。

VI 英語担当教員の英語使用状況

現状・目標

校種	英語担当教員の英語使用状況(%)			
	H26	H27(現状)	H28	H29
中学校	46%	54%	70%	80%
高等学校	44%	50%	70%	80%

- (1) 山形県「英語指導力向上セミナー」受講者は、推進リーダーによる研修時に、前回の研修で学んだ内容をどう授業改善に活かし、また各校の授業改善に向けてどのような取り組みを行ったかについて報告し、情報交換を行う。
- (2) 先進的な取り組みをしている学校の授業風景のDVDを作成し、研修等で活用する。また英語による英語の授業モデルの事例集などを作成し各校へ配布するなど、「英語指導力向上セミナー」受講者以外にも、日常的に研修できる体制を整えていく。
- (3) 研修協力校における公開授業の際には、大学教授から参加者を生徒に見立てた模擬授業を実施してもらい、参加者が英語による授業についてより具体的なイメージがもてるように支援していく。

VII 研修実施回数・研修受講者数

次表のとおり、計画している。

校種	参加者	平成28年度	平成29年度
小学校	県内研修回数	4	4
	県内研修受講者数	80	80
	延べ受講者数	300	300
中学校	県内研修回数	6	6
	県内研修受講者数	90	90
	延べ受講者数	320	320
高等学校	県内研修回数	6	6
	県内研修受講者数	(前期)42 (後期)72	72
	延べ受講者数	250	300

- 小学校については、受講者を指定した研修は2回
- 中学校については、受講者を指定した研修は2回
- 高等学校については、受講者を指定した研修は3回 実施する。
- 研修協力校の公開授業
 - ・小・中学校：地区内の学校からは原則1名以上の参加とし、他地区からは希望者の参加とする。
 - ・高等学校については、原則全ての高校から1名以上の参加とする。

(3) 研修の体系と内容の具体

I 研修の全体計画（～平成30年度前期） ※研修の内容についてはIIに記載

校種	参加者	平成28年度		平成29年度		平成30年
		前期	後期	前期	後期	前期
小学校	英語教育推進リーダー	3	3	3	3	3
	県内研修受講者	80		80		-
	県内研修受講修了者数	221		301		301
中学校	英語教育推進リーダー	3	3	3	3	3
	県内研修受講者	90		90		-
	県内研修受講修了者数	211		301		301
高等学校	英語教育推進リーダー	3	4	4	4	4
	県内研修受講者	42	72	72		
	県内研修受講修了者数	60	132	202		

1 研修の名称

「山形県英語指導力向上セミナー」

2 研修の目的

- (1) 講義・演習を通じて、より実践的に4技能のバランスの取れた指導が各校で実施できるようにする。
- (2) 児童・生徒の英語コミュニケーション能力を確実に育成するため、各学校が生徒の

実情を踏まえた指導法を自律的に開発できるよう支援を行う。

- (3) 広く研修協力校や推進リーダー等の授業実践を県内に普及し、英語による英語の授業実践や評価法についての理解を深めることができるよう支援を行う。

3 研修の期間

- (1) 小学校・中学校については年度内に 14 時間の研修を実施するものとする。
 (2) 平成 27 年度後期から受講を開始した高等学校の第 2 期生は平成 28 年度前期までとする。
 (3) 平成 28 年度後期から受講を開始した高等学校の第 2 期生は平成 29 年度前期までとする。

※ 以下翌年度以降も同様とする。なお、研修の実施時期については以下の点に配慮する。

研修成果を授業実践に活かしその成果を振り返るため、研修と研修の間には適切な期間をあけるものとする。

4 研修対象者

- (1) 小学校については、各学校の英語教育の中核教員とし、研修終了後、各学校で英語教育を改善できる者とする。
 (2) 中学校については、平成 29 年度までに全英語教員が受講するものとする。
 (3) 高等学校については、平成 30 年度前期までに全英語教員が受講するものとする。
 (4) 受講生の人数については、今年度の研修修了時点で研修修了者の数が学校数を上回るように計画している。

5 研修の評価

- (1) 中・高等学校の受講者については、英語検定試験受験を推奨し英語力を測定する。
 (2) その他の本申請書記載の目標についても把握し、必要に応じて 3 年目以降の計画を修正する。
 (3) 研修修了者は各学校の英語教育のリーダー教員として、研修の実施・授業改善を推進する。学校訪問等で授業参観し、必要な助言や支援を行う。
 (4) 域内研修では、参加者の授業がどう改善されたのかをアンケート調査し、必要に応じて指導・助言を行う。

6 研修協力校の指定

小・中・高等学校それぞれについて指定する。これまでの指定校の地域等を考慮し、平成 29 年度までに県内 4 地区（村山・最上・置賜・庄内）それぞれに拠点校を設置できるように考慮する。また、同校種の研修協力校を複数指定する場合には、例えば高等学校の場合、進学校と専門校のようにタイプの異なる学校を指定するよう考慮する。これにより、全県的に取組を普及させることが出来るばかりでなく、学校の実情にあわせた様々なタイプの指導法を開発することができる。

【参考】

- 平成 26 年度 県立鶴岡中央高等学校（庄内）
 平成 27 年度 県立新庄南高等学校（最上） 県立南陽高等学校（置賜）
 東根市立袖崎小学校（村山）
 平成 28 年度 県立山形中央高等学校（村山） 県立酒田西高等学校（庄内）
 舟形町立舟形中学校（最上） 金山町立明安小学校（最上）

※なお、平成 27 年度より鶴岡市(庄内地区)が英語教育強化地域拠点事業の対象地区となっている。

II 「山形県英語指導力向上セミナー」の内容等

1 小学校教員研修

- (1) 受講者数：80名
※県内各地区のバランスにも配慮する。
- (2) 日 程：第1回 平成28年11月予定
第2回 平成29年1月予定
- (3) 場 所：県内2会場に分かれて実施
村山・置賜地区：村山総合庁舎西庁舎（予定）
庄内・最上地区：庄内総合庁舎（予定）
- (4) 内 容：①英語教育推進リーダーによる研修
②大学教授等による基調講演

2 中学校教員研修

- (1) 受講者数：90名（特別支援学校を含む）
※県内各地区のバランスにも配慮する。
- (2) 日 程：第1回 平成28年11月予定
第2回 平成29年1月予定
- (3) 場 所：県内2会場に分かれて実施
村山・置賜地区：村山総合庁舎西庁舎（予定）
庄内・最上地区：庄内総合庁舎（予定）
- (4) 内 容：①英語教育推進リーダーによる研修
②大学教授等による基調講演

3 高等学校教員研修

- (1) 受講者数：前期42名（第2期生） 後期72名（第3期生）
- (2) 日 程：第2期生 1日×2回（平成27年度に1日×1回実施）
1回目 5～6月頃 2回目 8～9月頃
第3期生 1日×1回（平成29年度に1日×2回実施予定）
1～2月頃
- (3) 場 所：第2期生 県教育センター
第3期生 県内2会場に分かれて実施
村山・置賜地区：村山総合庁舎西庁舎（予定）
庄内・最上地区：庄内総合庁舎（予定）
- (4) 内 容：①英語教育推進リーダーによる研修
②大学教授等による基調講演

4 その他の英語関連研修（参考）

- (1) 山形「スピーク・アウト」推進事業公開授業・研修会（高等学校のみ）
県内3校を研修協力校に指定し、公開授業を実施。指導法や評価法の研修を行う。
- (2) 英語ステップアップ・セミナー（中学校・高等学校）
希望者を対象にディベートや英語指導法に関する研修を実施する。（7月、9月）

- (3) 中高教員相互派遣研修（中学校・高等学校、一部小学校を含む）
県内4地区それぞれにおいて、中学校と高等学校の英語授業を公開し情報交換会を実施する。

5 公開授業

<研修協力校>

研修の一環として9～10月に各校種において研修協力校での公開授業・研究協議会を実施する。

<英語教育推進リーダー>

14時間の研修講師をつとめた推進リーダーに研究授業を提供してもらおう。これにより複数の地区で複数回の公開授業が実施できることとなり、研修成果をより効果的に普及することができる。

6 その他

推進リーダー連絡協議会を開催するなど、中央研修修了者や推進リーダーどおしがお互いに情報を交換できる場を積極的に設けていく。

Ⅲ 外部検定試験(TOEIC)団体受験の機会提供

TOEICの団体受験を実施し、英検準1級以上を取得していない職員を中心に受験を呼びかけていく。「指導力向上セミナー」研修生だけでなく、中高の英語教員で資格を取得していない教員を対象とする。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	研修企画会議の開催(義務教育課・高校教育課・教育事務所 教育センター・市町村教育委員会) 中央研修参加者の決定 外部専門機関からの講師選定・依頼	
5月	県内研修受講者の選出・決定 高等学校第2期生(平成27年度生)研修②	↑ 外部専門機関からの支援 (研修協力校関係) ↓
6月		
7月	英語教員ステップアップセミナー	
8月	高等学校第2期生(平成27年度生)研修③	↑ ↓
9月	英語教員ステップアップセミナー	
10月	研修協力校における公開授業・研究協議会(高等学校)	↑ 外部専門機関からの支援 (公開授業関係) ↓
11月	外国語指導助手の指導力向上研修(2日間) 小学校第3期生研修① 中学校第3期生研修①	
12月	研修協力校における公開授業・研究協議会(小・中学校) 英語教育推進リーダー情報交換会(※)	外部専門機関からの支援 (公開授業関係)
1月	小学校第3期生研修② 中学校第3期生研修② 高等学校第3期生(平成28年度生)研修①	
2月	研修の総括(英語教育改善状況の分析を含む)及び次年度の 研修計画の立案	外部専門機関からの支援 (年度総括と次年度へ 向けて)
3月		
【その他の取組】 ○TOEIC団体受験 ○英語教育推進リーダーによる公開授業(随時) ※英語教育推進リーダー情報交換会は、研修の実施状況等を踏まえ必要に応じて開催する。		

